

科学研究費補助金(基盤研究(S))「日本目録学の基盤確立と古典学研究支援ツールの拡充」主催
長野教育文化振興会協力

2013年度秋期【新・古典を読む-歴史と文学-】

第1回 秦の始皇帝像を見直す - 続々発見される新出土史料から -

開講日時：10/12 (土) 午後2:30～4:30

講義会場：金鵒会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師：学習院大学 文学部 史学科 教授

鶴間 和幸(つるま かずゆき)先生

概要：中国史上最初の皇帝、始皇帝の像は漢代の司馬遷の編纂した『史記』に頼っている。

ところが近年始皇帝と同時代の地方官吏が残した史料が続々と出土し、いまや漢以降の人々の価値観を超えた始皇帝の実像が明らかになりつつある。

焚書坑儒で思想を統制し儒者を弾圧した暴君であるのか、それとも長い戦国時代を終結させ統一と平和を実現させた有能な君主であるのかという二者択一の議論はもう古くなりつつある。

出土した同時代史料を紹介しながら始皇帝の実像に迫っていききたい。